

6万8千人のチカラ。

まちの

人カ学

【Power of People】

地域力=6万8千人のチカラ×スピード

SANYO ONODA City 2007

山陽小野田

2007年
山口県 山陽小野田市 市勢要覧



地域力 = 6万8千人のチカラ × スピード

The momentum of an object is the product of its strength of power (mass) and the length of the time when the power is applied (its velocity). It will be dense, if the quality is high and thus the speed is high, even though the quantity is small.

Although one individual Sanyo Onoda citizen has only a small amount power, the "power of the community" will be born if all of the 68,000 people come together to collaborate with each other. This power will generate even more energy. With the unlimited energy of the citizen's, Sanyo Onoda City aims to become one of the most livable cities in Japan.

力学の世界では「力積」という言葉があります。

「力の大きさ(量)」と「力が働く時間(速度)」を掛け合わせて、

物体の運動量の変化を表したものです。限られた量でも、

質が良く速いほど強く作用することになります。

山陽小野田市は6万8千の人々が生きるまち。

一人ひとりのチカラは小さくとも、その力が一つの塊となり

ゴロゴロと転がり始めたとき、そこには「地域力」が生まれるはず。

そして、その力が更なるエネルギーを作り出していく……

無限大の夢を結集して、目指すは「住み良さ日本一」のまちづくり。

2007年。山陽小野田市の挑戦は始まったばかりです。



31	30	24 22	20	18	16	14	10	8	6	4	3	目次 CONTENTS
市長あいさつ	協働のまち	田舎で、都会的な暮らし	山陽小野田市人カ学マップ	歴史の散歩道	さあ、スポーツのフィールドへ	まちの中で人間力を向上させる	「ドモの「チカラ」は「夢限大」	ふるさと個性化パスル「ふるさとづくり推進協議会」	実録、市民と市長の「対話の日」	まちづくりは「市民」が主役	今から始まる地域力	
	市民憲章・行政・議会 市章・各層市民・市の花・市の木		竜王山公園オートキャンプ場から交流館まさらカラス未来館	「ヨム」厚狭暉太郎を訪ねて 蔵川洋平選手袖レインシューズデビュー	県立おのだサッカー交流公園 総合指導 陸山英男氏インタビュー	ボラティア活動、女と男の行詩	「生活改善・学力向上プロジェクト」	「ラム」提言箱 出前講座 市民意見公募制度 自治基本条例の制定	「まちづくり市民会議」	「スピードと6万8千人のチカラ」		



今から始まる

地域力

「人」の生きるところにたくさん「暮らし」があります。そして、いろいろな「暮らし」のあるところに「まち」があります。
つまり「まちづくり」の始まりは「人」……。

キーワードは、
「スピードと
6万8千人のチカラ」

江戸時代からの石炭、明治時代からはセメントの産業で栄え、日本のエネルギーを支えてきた旧小野田市。穏やかな瀬戸内海と緑深い山並みに恵まれ、個性豊かな歴史と文化を育んできた旧山陽町……響きあう二つの顔を持つまちに暮らす「人」の表情も笑顔にあふれています。

「人」のチカラを大切にし、住むとともに、誰もが誇りと生きがいを持てるような山陽小野田市のまちづくり。必要なものは市民一人ひとりが主役であるという気持ち。つまり、ふるさとを愛する行動力です。

Always supporting the energy of Japan, the former Onoda city has flourished with its coal industry since the Edo period and with the cement industry since the Meiji period. The former Sanyo town has nourished its history and culture of distinct

individuality. The power of the two communities was combined. We will build a new community where each individual citizen is held in high esteem and everyone can be proud of themselves as citizens that have something to live for.

一人
ひとりの
チカラが
原動力です。

まちづくりは

「市民」が 主役

山陽小野田市では多彩なまちづくりを進めるにあたり、広く市民の意見を取り入れ、市政への市民参加をうながすために、「まちづくり市民会議」を設置しています。

これは市民から公募した委員によって構成され、期間などを定めて課題ごとに部会を開くというユニークなもの。これまでも企業住宅の活用方法、市民まつり、市の名称、教育施設の使用料金などのテーマについて、部会を開催してきました。その会議内容はホームページを通じて、一般にも広く公開しています。

まちづくりの基本は「人」：地方分権の進展とともに、

市民自らがまちづくりに参加することの必要性が高まってきています。しかしながら、うわべの言葉だけでなく、市民の手によるまちづくりを真剣に考え、その実践を行っているところはどれくらいあるでしょうか。

山陽小野田市では、市民の視点と立場から確かな提言を伝えられるよう、さまざまな取り組みを実践しています。

その一つが「まちづくり市民会議」です。

市民が主役となるユニークな会議として、

その成果は一步ずつ、身近なところで実を結び始めています。

As the decentralization of power presses forward, the need for citizens to participate in community building is increasing. Sanyo Onoda city has a unique "Citizens Advisory Council for Community Building" to take as many opinions of citizens into account as possible and to facilitate their participation in municipal administration. The fruits of this can be seen all over.

The Citizens Advisory Council for Community Building is composed of members openly recruited from the citizens of the city. It forms a committee for specific issues for fixed periods. Examples include reuse of company-owned housing, citizens' festivals, naming of the new city, charges for using educational facilities and waste disposal. The opinions and requests made in the council are submitted to the mayor as proposals and their content is made public using the city's newspaper and web site.



焼却されるごみは
年間約2万8千トン。



透明のごみ袋には賛否両論。



150円～250円で販売されているごみ袋。
手数料の上乗せが検討課題。



提言書が市長に提出されました。

アイデアや要望も続々

「取っ手をつけてほしい」「袋にもっと強度を」と「値段が店によって違う」などの提案や意見が飛び交いました。

また祝日にごみを収集してもらえないのは困るという切実な問題も。

さっそく予算や体制と合わせて検討へ。



ごみ袋これでいいの？

新市が誕生し、ごみ減量のため指定袋を導入しましたが「中身が見えて出しにくい」など、多くのご意見が寄せられました。身近な問題として、「ごみ」全般について市民の考えを集約するため、まちづくり市民会議「ごみ処理対策」部会が設置されました。

会議の提言書を市長に

●ごみ袋の変更は経費が必要のため、色や形は現状維持。

●地区で異なる分別区分、収集回数は統一。

●ごみ減量への意識が高まる美化活動の紹介。

こうした実のある会議内容は提言書として市長へ託されます。

身近なごみ問題を考える
市民会議

市民ならではの実感、暮らしと切り離せない「ごみ問題」のドキュメント

実録、市民と市長の「対話の日」

市民が市長と直接、膝の触れ合う距離でパートナーシップを

深めようと始まった「対話の日」。

地域の課題など、市民一人ひとりの考えを聞きながら

意見交換する場の様子と参加された方の声を実際にレポートしました。



対話の日とは？

親しみやすい市役所を目指し、市長自身が市内各地域に出向いて、市民とのコミュニケーションを図る場としてスタートした「対話の日」は毎月2回開催されています。

市内に約340ある自治会を可能な限り訪れたいという白井博文市長の熱意は、各会場で参加した多くの市民との対話を通じて、着実に実を結んでいます。

集まった参加者の声は、陳情・要望から市政に対する熱い想いまで、多岐にわたっています。

その一つひとつに耳を傾け、対話を続けていくことが、縁遠いと思われるがちな市役所との距離を縮め、「市民本位のまちづくり」をつくる礎となるのです。

白井 博文市長



同じ視線で夢を語る

須恵西自治会館で開催された対話の日も、開始時間前から熱心な市民の方が集まり、やがて会場はいっぱいになりました。まず最初に白井市長から、時おり冗談を交えながら市の現状や課題などの近況報告。緊張気味だった会場の雰囲気も少しずつ和んでいき、徐々に笑顔の輪が広がっていった機をとらえ「それでは、みなさん何かありませんか」とマイクを向ける白井市長。新幹線「厚狭」駅の活性化、陰山英男先生の学力向上プロジェクト、財政の現状など、市政に関するさまざまな意見や質問に一つひとつ丁寧に答えていきます。その根底には誇りを持てる山陽小野田市を創りたいという誓いが満ちあふれ、参加者からは拍手と「元気に頑張って」の激励も。有意義な2時間はあっという間に過ぎていきました。

提言箱

市内25施設に設置。市への意見、苦情、要望など、投函されたものは匿名でない限り返答。箱にデザインされた鳥は“聞きトリくん”の名前で親しまれています。



出前講座

「市の業務内容が知りたい」「市の課題について教えてもらいたい」という団体に職員が出向いて説明。健康づくり講座など61のメニューがあります。



市民意見公募制度

(パブリックコメント)

市の計画や条例などの策定時に、事前にその目的・内容を公表し、広く市民から意見を聞く制度。政策形成過程の透明化を目的とし、広報紙、ホームページを使って実施します。

自治基本条例の制定

市民・議会・市役所が一緒になって知恵を出し合い、創意工夫しながらまちづくりを進めるための「基本的なルール」である自治基本条例。

平成21年度の施行に向けて取り組みを始めました。

To be a municipal government loved by its citizens, the mayor should visit every part of the city to communicate with them. Based on this belief, Communication Day started. It is held twice a month and the mayor visits any of the approximately 340 residents associations. The participants honestly express their opinions, from petitions and requests to expectations of the municipal administration. There are many other opportunities and places where people can learn about what the city is doing. Listening to and communicating with citizens is an important part of citizen-based community building.



農業や漁業の後継者不足は深刻。行政の対策が欠かせませんよ。



ボランティアに参加したい人は多い。市からも積極的に広報して。



学力向上プロジェクトの成果が楽しみ。子どもに明るい未来を。



【参加された方の意見】

地域ごとの「らしさ」を生かして



文化・スポーツの中心
小野田校区



平田 武さん

市民館、図書館、野球場など文化・スポーツ関連の公共施設が集中する小野田校区。「親子3代グラウンドゴルフ大会」「どんど焼き」など、ふれあいの恒例イベントも盛んです。



豊かな自然に恵まれた
本山区



藤田 信博さん

日本夕陽百選「きららビーチ」、桜の名所竜王山など見どころいっぱいの本山区。校区のシンボルを制定するなど、貴重な自然の保護に地域をあげて、取り組んでいるところです。



歴史の深さを味わえる
高泊校区



戸山 孝夫さん

国指定文化財「浜五挺唐樋」に代表される歴史ある地域も、住宅団地の造成がすすみ、最近では、新旧の人の交流が盛んに行われるようになっています。



ヒメボタルの生息地
赤崎校区

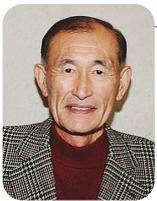


末永 計豊さん

古くからある漁港と電力会社や山口東京理科大学などが混在する赤崎校区。近年は、竜王山が日本有数の「ヒメボタル」の群生地として注目され、6月に開催される「観賞の夕べ」にはたくさんの人が参加します。



市内最大の人口
高千帆校区



長谷川 眞幸さん

校区を縦横に走る幹線道路沿いに商業施設が進出するなど、まち全体が大きな変貌を遂げている高千帆校区。変わらぬ人情で住み良いまちづくりを行っています。



セメントの「小野田」の象徴 須恵校区



豊田 通治さん

日本初の民間セメント会社小野田セメントのお膝元でにぎわいを見せていた須恵校区。現在は、「合唱のまちづくり」を合言葉に地域をあげて人の「輪」を大切にしながら交流を深めています。



「ふるさとづくり推進協議会」個性化パズル

市ふるさとづくり推進協議会会長



安部 寛二さん

「ふるさとづくり推進協議会」は、各種事業の推進や校区の活動支援、人材育成に取り組む、心触れ合う明るく住み良いまちづくりに取り組んでいきたいと考えます。次代を担う青少年の健全育成とともに地域の交流を盛んにし、市全体を元気にしていきたいですね。市民主役のまちづくりの大きな力になれるよう頑張っていきます。

たくさんのピースから出来ている大きなパズルを想像してみてください。一つひとつのピースがそれぞれの役割を持ち、素敵な出会いや未来を完成させていく。パズルは、山陽小野田市のまちづくりそのもの。個性あふれる地域の取り組みや活動を支えていくのも、市民一人ひとりのチカラです。さあ、一緒に、山陽小野田市「らしさ」を描いていきましょう。

Imagine a large jigsaw puzzle consisting of many pieces. Each piece has its role, encounters other pieces and together they compose the future of the city. The puzzle represents community building in Sanyo Onoda city. What supports the efforts and activities of the unique local community is the power of each citizen. What constitutes the colorful expressions and attraction of the city is the intentions and actions of the people who love it. Why not join us and help us create a picture of our hometown, Sanyo Onoda.

花いっぱい厚陽校区



村岡 昭一さん

市内全域で行われる花壇コンクール。の苗は厚陽公民館前の花壇で厚陽中の生徒と地域の人々が丹精込めて育てたもの。厚陽校区の笑顔の種が市内各地で大きな花を咲かせています。



有帆校区
ホテルが飛び交う



杉村 傅さん

有帆校区のシンボルはホテル。学校と地域が協力して、幼虫の飼育から放流を行い、子どもたちは自然を守る大切さを学んでいます。校区あげての環境美化活動に今後も取り組んでいきます。



周防灘を一望風光明媚な津布田校区



遠山 博久さん

眺めの良い海沿いに立ち並ぶ食事処や旅館には市内外からたくさんの人が訪れます。「ふるさとまつり」「どんど焼き」など地域のつながりを大切にするイベントも行われています。



交通の要衝地厚狭校区



縄田 明人さん

JR山陽新幹線厚狭駅があり、国道190号と316号が交差する厚狭校区は山陽と山陰を結ぶ交通の要の地です。設立されたばかりのふるさとづくり協議会を中心に様々な取り組みを始めています。



世代間交流が盛んな埴生校区



水田 三代春さん

市の西端に位置し、下関市と境を接する埴生校区。「ふれあい夏祭り」や「お祝い夢花火」などが開催され、世代の枠を越えた交流が盛んに行われています。



「であい」の和出合校区



長岡 弘人さん

工業団地やゴルフ場に囲まれ、自然とまちの活力が調和した出合校区。設立されたばかりの「ふるさとづくり推進協議会」を中心に、明るい住み良いまちづくりを目指します。



ロボットのチカラは

チカラを育てる。



子どもは地域、まち、そして地球にとって、未来そのもの。山陽小野田市のチカラを受け継いでいく一人ひとりの子どもは、何よりも大切な存在であり、かけがえのない役割を担っています。

その小さいけれども無限大の可能性にあふれたチカラを、山陽小野田市はまじめに育て、大輪の花を咲かせ、目の前に広がる「未来」という形へ実らせようとしています。

市民一人ひとりの強さと優しさが、これからのまちに「夢限大」の笑顔と元気を根づかせることができますように。

6つのプロジェクト

- ◆生活改善・学力向上プロジェクト
- ◆子ども読書推進プロジェクト
- ◆本物感動体験プロジェクト
- ◆市民情報教育支援プロジェクト
- ◆文化会館 ホームグラウンドプロジェクト
- ◆山口東京理科大学連携プロジェクト

Children are the future of the community, the city and the earth. As they will inherit the power of the city, they are more important than anything else is and assume a role that cannot be replaced by anyone else.

We will earnestly nourish this small power of infinite possibility so that it will bloom and bear fruit in the future. We hope that the strength and tenderness of each citizen will help children to be full of delight, vigor and dreams.

●百ます計算
子どもの習熟度に応じて、ますの数を増減しながら、四則演算を時間をきめて行います。



夢 限 大

● 陰山英男 先生
インタビュー

生活改善・学力向上プロジェクト
総合指導

教育現場と家庭をひとつにしよう。

生活改善・学力向上プログラム

児童や生徒の生活環境は、ここ数年で劇的な変化を続けています。夜型生活や情報化社会との過度な関わりなどが日常となるにつれて、勉強に意欲や夢が持てない、基礎体力や健康状態が下降している子どもたちが増えています。これからの成長を支える「人間力」を取り戻すために、山陽小野田市では“百ます計算”などでおなじみの陰山英男先生を指導役としてお迎えし、家庭と学校が役割分担できる「生活改善・学力向上プログラム」に市内の全小学校で取り組んでいます。全国でも画期的な教育改革プロジェクトが私たちの身近なところで着々と進行しています。



陰山 英男先生 プロフィール

兵庫県出身。立命館大学 大学教育開発支援センター教授（立命館小学校副校長を兼務）、平成18年10月から安倍首相諮問機関「教育再生会議」委員。岡山大学法学部卒業後、通信教育課程で教員免許を取得。現場や保護者と一体になった基礎学力向上のメソッドを開発。岸本裕史氏が提唱した「百ます計算」や読み書きの反復、日常生活の見直しなどを徹底して取り入れ、大きな成果を上げる。その後も広島県尾道市立土堂小学校校長に公募で就任するなど、精力的に教育現場と関わり続ける。山陽小野田市の教育改革プロジェクトにも、全国的な注目と期待が寄せられている。

「教育って本当は
明るく楽しいもの
なんです。」

私が山陽小野田市でお手伝いさせていた
いているプロジェクトには、全国にも誇れる
画期的な特色があります。ひとつは特別な実
験指定校や私立学校の取り組みではないこ
と。教育長の「特別な学校はつくりません。す
べての学校、学級、子どもたちに責任を持
う」という姿勢には心を動かされました。教
育現場として、こういう言葉はなかなか言え
ることじゃない。私もお手伝いというレベル
ではなく、みなさんと一緒に山陽小野田市の
子どもたちを輝かせていきたいと思えます。

もうひとつは生活習慣と学習効果の関係
を、数字のデータで証明したこと。これは今
後の教育改革でも、全国的なモデルケースに
なると確信しています。私が提唱している
「早寝・早起き・朝ごはん」は、「読み・書



明るい教育は

生活習慣の改善から

組みが始まります。それを支える教育委員会や現場の先生が明るいのも山陽小野田市の特色。残念ながら今の教育は暗いイメージを持たれる人が多いでしょう。でも教育って本当は明るい、楽しいもの。未来を担う子どもたちの成長を間近にしているのですから。子どもが幸せになるためには、大人も幸せでないといけません。子どもに必要なものは、受験だけに適応した学力ではなく、「地頭（じあたま）」。彼らの好奇心はど

き・計算」と同じくらい大切な柱となっています。例えば毎日夜9時には寝る、テレビを見るのは毎日1時間にすると、毎朝ごはんを必ず食べて登校する。これって昔なら、おじいちゃん、おばあちゃんの説教ですよ（笑）。今の時代は、それでどうなるのという形を、説明できないと納得されない。そこで生活習慣と学力の関係性に着目し、市内全小学校約3700人対象に、学力・知能検査、生活調査を実施。生活環境が学力にどういう影響を与えるかを、具体的なデータで把握すること

ができました。このデータは生活習慣の改善を教育現場から強要するものではありません。むしろ学校と家庭が、それぞれ教育の責任を持つためのスタートラインだと考えています。テレビは1時間がいいですよ、そのためにどうしましょうかと、お互いが対話できるわけですね。こちらの教育長は物理学の先生、データ分析のプロとお聞きし、もう山陽小野田市じゃないと実現できないと思っっているぐらい（笑）。これから現場で分析結果が活かされた取り

ん欲です。とくに小学校時代は一定の知識に偏ることで、知識欲を磨耗させてはいけません。子どもたちは必ず伸びる。しかも爆発的に。そうした姿を間近にする喜びを、すべての人に実感してほしいですね。

「電子教材やテレビ会議の導入で教育にも効率的な成果を」

さまざまな教育改革を、限られた時間でも実践していくためには、省力化していくことも必要です。今回のプロジェクトは文部科学省でも採択され、大きな予算を援助として受けています。それを大いに活用して、市内の全小学校にテレビ会議モニターなど、最先端の教育設備を導入しました。

これは各学校を拠点として画面上で結び、お互いの意見交換や成功例の指導などを、リアルタイム中継で実現するものです。ま

The city has introduced videoconferencing facilities connecting schools, where the relation between living habits and learning is demonstrated with mathematical data, as well as highly efficient lesson styles that utilize electronic teaching materials. This unique educational reform project is attracting attention from all over the country and the establishment of a pleasant and enjoyable educational environment is expected.



●PCタブレット

漢字習得のために、手書きパソコンを使った取り組みも進められています。筆順、覚えの悪い漢字などが記録として残るので、苦手なところを徹底的に反復することで身に染みこませることが可能です。





●音読

「坊ちゃん」「平家物語」から漢詩まで名作、古典などバリエーションに富んだテキストに採用。体全体を使って声に表情を出していく授業も行われています。(上写真)



た電子黒板は子どもたちとゲーム感覚で、読み書きの暗記学習などが可能。そして各学校の一部学級が対象となりますが、「電腦陰山メソッド」と名づけた電子教材を配布します。これは小型のパソコンで、学校だけではなく家庭学習にも使える電子教科書とノートのセット。現在は漢字学習がメインですが、質問に答えを入力すると正誤の判断だけではなく、字体や筆順なども評価します。小テストの間違いを記憶し、一人ひとりの進度に合わせた課題もプリント出力できます。現場では子どもの筆順やクセまで指導するのは困難ですが、こうした電子教材の導入により、将来はもっと高度かつ効率的な学習方法への発展が期待できますね。いずれは入学時のお道具セットに入ってくるかもしれません。

Hideo Kageyama, a schoolteacher, is a member of the Education Recovery Committee, an advisory panel to the cabinet. He advocates his unique educational method, including "module-style lessons" that attach importance to reading, writing and calculation. He also plays a leading role in educational reform in Sanyo Onoda city.

For the purpose of nourishing the "ability to live" in children, the city invited Hideo Kageyama as the leader of the program to improve the living habits and academic ability of children, where families and schools are responsible for their own roles. All primary schools in the city are practicing the program.

こうした先端分野と生活改善による学力向上を基本とし、1〜2年のうちには結果を出したいと思います。山陽小野田市の教育改革を实りあるものとするため、私も全力で取り組みます。保護者、先生、そして市民のみならず、どうか自信を持って、子どもたちを見守ってください。



●ふるさとクリーン作戦

The city provides comprehensive and dedicated assistance to supply information to the people who want to become involved with various activities or expand the scope of volunteer or civic activities.

「ボランティア活動」

●総合窓口の設置

市民活動推進課では、「市民との協働による住民主役のまちづくり」を推進するため、市民活動（コミュニティ活動、ボランティア活動、NPO活動など）の総合案内窓口として、市民活動団体、庁内の各部署が募集しているボランティアや市民活動に対する各種助成制度の情報を収集し、ボランティア活動を始めた方や、現在の活動の拡大を考えている方に情報を提供していきます。

6万8千人の
チカラ
向上宣言



まちの中で 人間力を向上させる

いろいろな考え方や生き方の方がいます。そつした個性を認め合えるまちづくりも、山陽小野田市が目指す人間力の証明です。

「女と男の一行詩」

●女と男の一行詩

身の回りで実感する「男女差別」や「男女平等」への思いが詠まれた一行詩を、山陽小野田市では全国から募集し、発表する機会を設けています。

回を重ねるごとに注目され、応募作品数も平成18年は2652点まで増え、男女共同参画社会を実現するための啓発活動として高く評価されています。

毎日の暮らしで何気なく交わされる言葉、口に出して言えない不満が文字になる時、特別な意味を持つ「一行詩」の世界が生まれます。身近な異性への素直な気持ちを、あなたらしい表現で輝かせてみませんか。

■応募先

〒756-8601

山陽小野田市役所市民活動推進課

「女と男の一行詩」係





Volunteer groups Subaru

ボランティア団体
すばる会

すばる会は平成13年に「のびる有帆」「高泊壮青年団」「本山会」の3団体で設立。それぞれの校区でまちおこしのボランティア活動に取り組んでいましたが、情報交換などで交流を重ねるうち、活動を全市へ広げようと団結しました。主な活動としては、きららビーチの「やけの美タフェスタ」でのイベントのお手伝いや小学生対象の「夏休み造形教室」の開催などを行っています。おかげさまで平成18年には、やまぐち県民活動きらめき財団の理事長表彰をいただきました。賞のための活動ではありませんが評価されたのはうれしいですね。これからも地域を盛り上げたいと思います。

We are a volunteer group of community builders and try to have many opportunities to play with children. Our activities are recognized and appreciated.



●夏休み造形教室



Volunteer at a hospital Keiko Takeuchi

病院ボランティア
竹内桂子さん

小野田市民病院で施設利用者のお手伝いを始めました。今は週に2回、病院の玄関に立ち、来院者の方をお迎えしています。最初は不安でしたが、それでも目立つようにと赤いエプロンをつけ、「おはようございます」「お大事に」と声をかけたり、受付案内や車椅子介助などにも対応しています。あいさつを返していただくと緊張もほぐれますね。小さな気配りと目配りを毎日大切にしています。「何かお役に立ちたい」という私たちの気持ちから、奉仕の輪がどんどん広がっていくといいですね。

I volunteer twice a week at Onoda Municipal Hospital. Wearing a red apron, I welcome and guide patients at the entrance.



ひと ひと
女と男の21世紀

女と男（人と人）、異なる性とそれぞれの思い…。これらを結びつける「と」という言葉。たった一文字だけど、そこからどんどんつながって、広がっていく力を感じます。

英語にすれば「and」。このandに笑顔を配して、男女共同参画社会づくりをめざす山陽小野田市のシンボルマークにしました。

The city welcomes one-line poems that express what people think about sexual discrimination and the equality of the sexes from all over the country, providing an opportunity to make them public.

The project attracted as many as 2,652 poems in 2006 and is highly evaluated as an awareness campaign to realize gender-equality in society. The symbol represents the Japanese character “to” meaning “and”, expressing the importance of relationships. A smile, as well as “and” also make up the symbol.

“I promised I would make you bappy but you made me bappy”.

(Highest award in the seventh competition)
All works arouse sympathy.

家事分担というけれど、私は「やってもらう」といい、あなたは「やってあげる」という。これって何だかおかしくないの。

●第1回（平成11年）最優秀賞

あなたにとっての日曜日 私にとっても日曜日。

●第2回（平成12年）最優秀賞

あなたゴルフクラブ貸して、エプロン貸すから。

●第3回（平成13年）最優秀賞

振り向かないで、私はあなたの隣にいます。

●第4回（平成14年）最優秀賞

あなたと私、互いに生かし、生かされたい。

●第5回（平成15年）最優秀賞

あなたの心が春風だから、花が私に咲くのです。

●第6回（平成16年）最優秀賞

幸せにすると言ったのに、幸せになったのは俺の方だ。

●第7回（平成17年）最優秀賞

なぜ刺さる まわりの視線 パパ産休。

●第8回（平成18年）最優秀賞



のフィールドへ



県立おのだサッカー交流公園

市民のスポーツ 交流を支える拠点

県立おのだサッカー交流公園は、サッカーを中心としたスポーツの振興を通じて、「スポーツによるまちづくり」を進める目的で整備され、平成18年（2006）7月にオープンしました。平成23年（2011）の山口国体では、少年サッカーのメイン会場にも予定されています。

敷地の広さは約8・1ヘクタール。4千人を収容できる芝生観客席や4基の照明設備を備えた天然芝サッカー場のほか、多目的に利用できるスポーツ広場や芝生広場、ジョギングロードにもなる外周園路、会議室・シャワー・更衣室を完備した交流施設棟などが設けられています。普通車210台の駐車スペースも確保されています。

誰もが気軽に訪れ、体を動かし、スポーツ活動に参加できる場所として、健やかな市民生活を支援していきます。



スポーツのまち 山陽小野田の歴史

昭和38年(1963)に開催された山口国体では、旧小野田市が高校サッカー競技の会場となったほか、昭和40年には小野田工業高校が甲子園へ初出場。昭和47年のミュンヘンオリンピックでも地元出身の金メダリストが誕生し、明るい話題を提供しました。



●国体では小野田工高がベスト8へ進出



●夏の甲子園初出場で入場する小野田工高



●女子バレーで山下規子さんが金メダル

サッカーのまち

山陽小野田市から世界へ
羽ばたく選手を育てよう



高校サッカーフェスティバル

国体の高校会場となって以来、サッカーが盛んな山陽小野田市。高校サッカーフェスティバルは毎年3月下旬に行われ、すでに25回の歴史を数える春の恒例イベントです。西日本各地の強豪校が参加し熱戦を繰り広げます。

●インタビュー

僕がサッカーを本格的に始めたのは小学校から。中学校では練習中、水も飲まずに走り続けた記憶があります。高校時代は選手権でベスト8、大学選抜にも選ばれ、プロでプレーしたいと強く願うようになりました。

子どもの時から良き指導者に恵まれ、山陽小野田市のサッカー環境は整っていたと思います。新しいサッカー場のある交流公園から素晴らしい選手が生まれることを期待しています。

現在プレーしている柏レイソルが念願のJ1復帰を果たし、今年度はレギュラーとして全試合に貢献できることが目標ですね。いろいろなリーグとチームでプレーしましたが、どれも一つ無駄にはなっていません。サッカーに取り組む姿勢や技術は、絶えず学んでいます。

みなさんも好きなことをあきらめずに、気持ちとレベルを上げていく努力をしてください。一緒に夢へ向かって走り続けましょう。

©KASHIWA REYSOL



夢へ向かって 走り続けよう

藏川 洋平 選手



藏川洋平 選手 (くらかわようへい)

生年月日 昭和52年(1977)8月10日
身長・体重 173cm・70kg

経歴

小野田市立須恵小学校ー小野田市立小野田中学校ー多々良学園(現 高川学園)ー愛知学院大学ー横浜F・マリノスーFCホリコシー 現在、柏レイソルで活躍中

さあ、スポーツ



Citizen's sporting activities, including football, baseball and volleyball, are very popular in Sanyo Onoda city. To support the communication invoked by sports, the Prefectural Onoda Football Park was opened in July 2006.

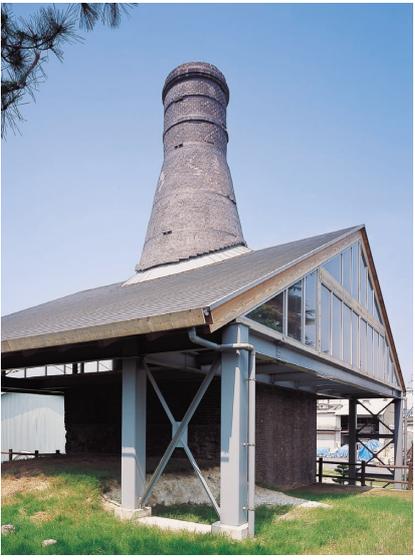
In the approximately 8.1-hectare area, it has a natural-grass football stadium equipped with grass-covered spectators' stands with a capacity of 4,000 people, lighting equipment, a multi-purpose field, a jogging course, a facility equipped with a meeting room, showers, changing rooms and parking lots.



歴史の散歩道

まちを支える
歴史

Sanjo Onoda city has many places and cultural assets where you are able to learn about its history. Why not visit the historical sites and discover something new?



●旧小野田セメント製造(株) 窯(通称:徳利窯)
国重要文化財。旧小野田セメント創業期のセメント焼成炉。形状が酒徳利に似ているため、通称「徳利窯」と呼ばれています。日本近代産業の黎明期を伝える貴重な遺構です。



●浜五挺唐樋
国指定史跡。寛文8年(1668)に作られた潮止め排水用樋門。唐樋と呼ばれる招き戸が五挺あることが名前の由来。潮の干満で自然開閉する扉は当時の工法を今に伝えます。



●小野田セメント山手倶楽部
国登録有形文化財。大正3年(1914)完成。イギリスから持ち帰った型枠でコンクリートブロックを製造。建築史上貴重な大正時代のブロック建築です。



●高泊御開作新田記
市指定文化財。寛文12年(1672)の奥書がある古文書1巻。全長4.53m、幅35.5cm。寛文8年(1668)汐止めの高泊開作400町歩の工事の経過を記録した貴重な資料です。



●古式行事
市指定無形民俗文化財。古式行事は、秋の収穫を祝い、厚狭天満宮への奉納行事として行われているもので、いつごろからどのような目的で行われるようになったかは不明。一時衰退するも、昭和三十二年(1977)に有志で発足した「古式行事保存会」が保存継承に努め、今に伝えます。



厚狭寝太郎を訪ねて



荒れ地を切り拓き美田に変えたという寝太郎伝説。厚狭のまちには今も寝太郎の面影が息づいています。

厚狭の荒れ地「千町ヶ原」を、みずみずしい水田に変えるなど、村おこしの開祖と伝えられる厚狭の寝太郎。厚狭駅の周辺や厚狭川の河畔には、寝太郎ゆかりの地と遺跡があちろこちろに残されています。手づくりの寝太郎人形、「寝太郎」の名前を冠した調味料・酒・お菓子などのおみやげ品、そして寝太郎伝説の研究者による紙芝居や出版まで、寝太郎は今もまちの人々と暮らして寄り添っているかのよう。寝太郎の足跡を訪ねると、山陽小野田市の新しい魅力が見えてきます。



円応寺には寝太郎の御神体と見られる木像があり、毎年4月には権現堂が開かれ御本尊を拝めます。農民たちが寝太郎への感謝を捧げた寝太郎神社は、石祠がシンボル。





●**正法寺古文書**
市指定文化財。松嶽山正法寺に残る13世紀～17世紀の古文書。中世寺社衰退の片鱗を物語っています。

●**岩崎寺観音堂銅口**
市指定文化財。青銅の打具。直径27.2cm、幅5.7cmの中型で1392年の銘があります。室町時代初期の世上不安がうかがえます。



●**木造千手観音菩薩立像**
県指定文化財。岩崎寺観音堂本尊。高さ183.6cmで20年ごとに開帳される秘仏。奈良期の様式を伝える樟の一本造りです。



●**長光寺山古墳出土品**
県指定文化財。古墳は二つの石室を持つ4世紀後半のもの。碧玉製鍬形石は日本最西端の出土品で高く評価されています。



●**銅鐘**
県指定文化財。高さ116.5cm、口径67.2cm。正法寺の鐘楼に納められ1363年の寄進とされています。



●**寝太郎堰**
農林水産省の「疏水百選」にも認定。寝太郎が拓いたという田畑に水を送り続けます。



●**寝太郎太鼓**
地元のお祭りなどで勇壮な響きと姿を披露する伝統芸能。保存会も活動しています。

Kiyokaki, a son of Genshin Hiraga, was determined to build an irrigation ditch for the farmers who suffered from water shortages. He pondered on how he could raise the funds to do this for three years and three months. This resulted in him being called the "Sleeping Man". He collected gold dust from the footwear of the workers at a mine and used the gold to pay to cultivate the wasteland into paddy fields. "Sleeping Man" became a word of praise

寝太郎物語

信濃の国に平賀源心という殿様、その子・清垣がおりました。ある日、城に武田軍が攻め入り、源心は討たれ、清垣は周防国にいた姉のもとへ。清垣は周防・長門を治めていた大内家の家臣となりましたが、お家騒動で長門国厚狭に身を隠します。

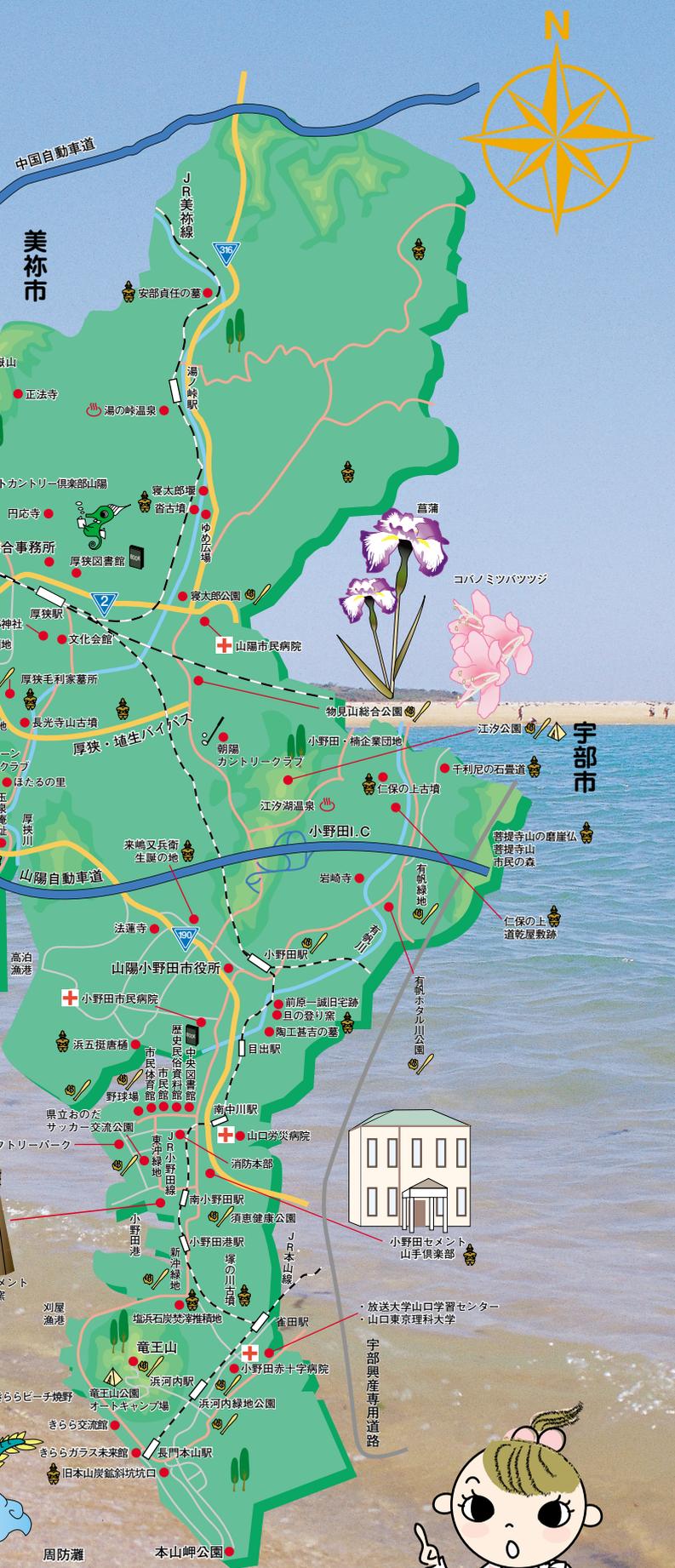
厚狭に住んだ清垣は水不足に悩む農民のため、用水路を引くことを決意。その資金をどうするか、寝ても覚めても思案を続け、3年3か月。人々は「寝太郎さん」と噂をするよつこになりました。

清垣はワラジを佐渡ヶ島の鉱山で働く人へ与え、代わりに古いワラジを持ち帰りました。そして風呂おけですすぎ、底に沈んだ砂金を集め、土地を開拓する資金にしたのです。やがて立派な水田が生まれ、清垣は寝太郎さんと讃えられ、神社に祀られるよつこになりました。

山陽小野田市

力学 マップ

～交流スポットに行こう～



● 龍王山公園 オートキャンプ場

遠く関門海峡を望む龍王山の中腹に平成13年(2001)オープン。西日本有数のサイト数を誇り、市内外からの観光客で週末はにぎわっています。テント無しで宿泊できる「トレーラーハウス」のほか、「個別サイト」「広場サイト」があり、利用人数などに合わせて選ぶことができます。また、日帰りのデイキャンプも好評です。5月から6月にかけてはヒメボタルの美しい乱舞も見どころです。



● 竜の形をした複合遊具

- 入退場可能時間 / 6:00～22:00
- 12月～2月は宿泊利用不可
- 問い合わせ・予約 / 0836-89-0055

※市のホームページからも予約状況の確認申込ができます。

<http://city.sanyo-onoda.lg.jp>

◇ 皿山を活かす ◇



● 松井製陶所代表 松井 孝示さん



● あさから目出たい

明治時代、硫酸を製造する化学工場が建設されたのを機に出荷用の瓶をつくる製陶所が数多く開かれ、窯業が盛んだった山陽小野田市。最盛期は50を越える工場がありましたが、時代の流れで次々と廃業。目出新町の松井製陶所、一軒のみが窯の火を絶やさず守っています。現在も特産品の米焼酎「あさから目出たい」の容器の製造を行うなど、脈々と受け継がれた伝統の技は今も高い評価を得ています。



●きらら交流館

日本の夕陽100選にも選ばれた「焼野海岸」は、きららビーチ焼野として整備・完成、優れた自然景観と一体になったレクリエーション・ゾーンを形成しています。その宿泊研修施設として活用されている「きらら交流館」は、和・洋室の宿泊室・研修室、トロン温泉・露天風呂などを備えており、自然を身近に感じながらの各種研修、親子で学習体験する催しなど、多世代に幅広く利用されています。また、夕陽を眺めながらの入浴は格別です。

- 開館時間／9時～22時 ●休館日／月曜日（祝日の時は翌日以降の平日）
- 問い合わせ・予約／TEL88-0200 FAX89-1390

There are facilities in Sanyo Onoda city that nourish communication not only between citizens but also with people from many other places. Facilities for that arouse the excitement of an encounter and experience can be found by the sea, on the hills and in the town. You will be able to create unforgettable memories anywhere.



●「月齢」2001年 西川慎作



●館内の様子



●制作風景



●きららガラス未来館

きらら交流館から本山岬方面へ約200mのところ、平成16年（2004）6月にオープンした「きららガラス未来館」では吹きガラスなどいろいろなガラス作り体験が楽しめます。また国内外で有名なガラス作家、故竹内傳治氏（本市出身）の作品を始めとした、色とりどりの美しい現代ガラス作品の展示やガラスの歴史、技法などもパネルで紹介しています。

- 開館時間／9:00～17:00 ●休館日／毎週月・火曜日
- 問い合わせ・予約／TEL・FAX0836-88-0064

- 🏠 病院
- 🏕️ キャンプ場
- ♨️ 温泉
- 🏞️ 公園
- 📖 図書館
- 🏛️ 古墳・史跡
- 🏌️ ゴルフ場



田舎で、



●竜王山の桜



●物見山総合公園の菖蒲園

山全体が一万本の桜に染まる竜王山、厚狭盆地の眺望と初夏の菖蒲も美しい物見山、日本の夕陽100選にも選ばれた焼野海岸。それら一つひとつの風景は、心と体を和ませてくれる山陽小野田市のオアシス。自然がいつも微笑みかけてくれます。

●心とむ田舎ぐらし

波穏やかな瀬戸内海、

緑深い山と森、

それらを身近にしな

暮らせるのは本当に贅沢なこと。

市民一人あたりの公園面積は、

全国トップクラスの山陽小野田市。

緑の都市賞では内閣総理大臣賞も。

市民は暮らしに海と緑を忘れません。

豊かな自然と四季の風情に彩られたまち。未来へ向け前進する都市のチカラに満ちたまち。山陽小野田市には二つの美しく快適な表情が響き合っています。

田舎のホッとする安らぎ、都会のワクワクする楽しみ。市民の暮らしを育むのは、山陽小野田市ならではの出会い・ふれあい・未来です。

●焼野海岸の夕日



都会的な暮らし

●快適都会暮らし

発展するまちの活力は、市民に元
気をもたらしてくれます。

そこに暮らす、すべての人が豊か
さを実感できるような、そういうま

ちづくりを目指して、山陽小野田市

は伸びゆく未来を見つめます。

まちのさまざまな場所で、都会の

便利さと人が共生していけるように。



●石油備蓄基地



●JR山陽新幹線 厚狹駅



●山陽自動車道 小野田I.C



●新山野井工業団地

The city aims at becoming the new ideal city, through constructing an industrial park, improving its traffic network and constructing a large-scale housing complex. People enjoy both the peaceful landscape and the dynamism of a city.

新しい産業を生む企業団地の建設、発展への道筋を象徴する高速自動車道路・バイパスやI.Cの整備、JR山陽新幹線「厚狹」駅の開業、大型団地の造成など、新しい都市の理想を形にするまちづくりが、山陽小野田市では着々と進んでいます。その基本は市民から望まれる都会の暮らし。美しい風景と調和したにぎわいのあるまちを目指しています。

San'yō Onoda city has a beautiful natural environment, including Mt. Ryuozan and its cherry blossoms, Mt. Monomiyama, loved for its iris flowers and the Yakeno coast, which was selected as one of the 100 best sunset locations in Japan.

住み良さを日本一を目指して

バランスの取れた 住み良さの創造

言葉だけではない「住み良さ」を、市民全員が実感できるよう、山陽小野田市ではバランスの取れた住み良さの創造を目指していきます。

毎日を安心して暮らせる「安全」。住まいと街の快適な調和を形にする「居住環境」。子どもから大人までの健やかな生活を支援する「健康と福祉」。何よりも明るい未来を受け継ぐための「子育て・人づくり」。そして地域の特色ある産業を活性化し雇用を創出する「働く環境」。こうした5つの理想を「住み良さ」の基準に求めて、山陽小野田市は市民と一体になり、「住み良さ日本一」のまちづくりを目指していきます。

人と自然の出会い、広い地域とのふれあいから生まれる本当の豊かさ。山陽小野田市は「住み良さ」を誇りに思い、誰もが住み続けたくなる生活環境の創造を目標にしていきます。

Sanyo Onoda city aims at the realization of balanced livability. We set security, living environment, health/welfare, the education of children and adults and the working environment as our five standards for livability. We endeavor to build the most livable community in Japan together with our citizens.



放課後児童クラブ
設置率

山陽小野田市

100%
【県内第1位】

山口県
77.8%
【全国9位】

厚生労働省育成環境調査、
文部科学省「学校基本調査」(平成17年)

暮らしの安心・安全を守るまちづくり

【健康・福祉・防災・防犯】

health・welfare
disaster prevention・crime prevention



安全安心まちづくり条例

平成18年9月制定。警察や関係機関と連携し、
事故や犯罪のないまちを目指します。
(写真は地域見守り隊)

市内全校区に 児童クラブ

市内の全校区に児童クラブを開設。ま
た、7校区には児童館も設置し、“子ども
公民館”としての役割を果たしています。

と市民病院
を核とした
地域医療体
制の充実を
環境づくり

市 民誰もが住み慣れた
地域で、ゆとりや、
やすらぎを感じながら幸せ
な生活を送るために、子育
て環境の整備や高齢者・障
害者が安心して自立できる



脳いきいき講座

すべての年代の人を対象に脳の若返り
訓練を行なっています。

図っていきます。
また、災害に強いまちづ
くりや、消防・防災体制、
防犯・交通安全対策等の充
実した安全な地域づくりも
進めていきます。



病院事業

平成18年10月地方公営企業法の全部適用に
移行。新病院建設の検討も始まっています。

*We want all citizens to live a happy life,
here in this place where they have
lived for a long time, feeling affluence and
peace of mind. For this purpose, Sanyo Onoda
city endeavors to improve the environment
for child rearing, build an environment
where the aged and handicapped can live a
safe and independent life and enhance the
regional medical system, focusing on the
municipal hospital.*

*The city also promotes building a safe
community that can endure even the worse
disaster and has enhanced fire fighting,
disaster prevention, crime-prevention and
traffic-safety systems as a result.*

市民が主役のまちづくり

【自治 行財政改革】

self-government
administration and finance reform

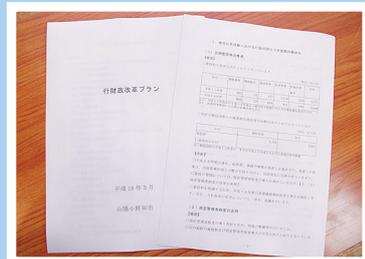
NPO法人の認証数
(人口10万人当たり)

山陽小野田市

13.6団体
【県内第9位】

山口県
15.8団体
【全国30位】

内閣府調査(平成17年)



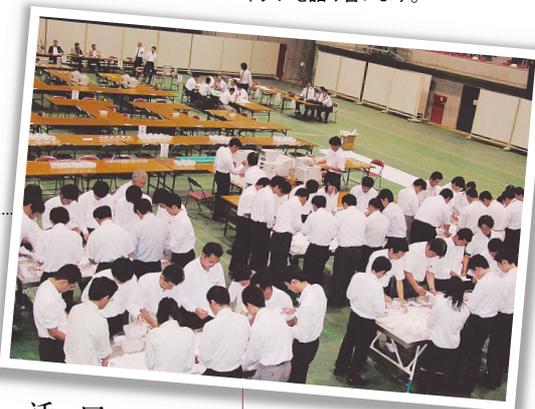
行財政改革プラン

平成18年3月策定。平成21年度までの視点に
たって策定された行財政改革の指針書。

行政を取り巻く環境が極めて厳しい中、より重点的、計画的、効率的な行財政運営が求められています。一方で地方分権の高まりとともに市民の自主的自発的な活動も活発になってきています。

市長を囲んでふるさとづくりを語る会

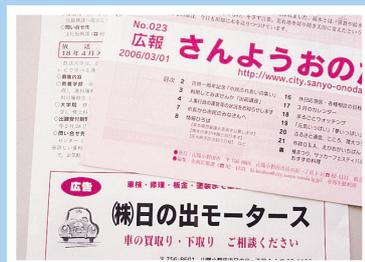
ふるさとづくり推進協議会主催。校区の代表がふるさとに寄せる熱い想いをまちづくりに反映させようとユニークなアイデアを語り合います。



そこで、市民の自主的な活動を支援し、まちづくりへの参画を図るなど、市民が主役の地域づくりを推進するとともに、市民と行政が対等・平等の関係で適切な役割分担で協力し合う「協働のまちづくり」の実現に向け、努力していきます。

住民投票制度

市政運営上、市民生活に重大な影響を及ぼす案件について、市民に直接意思を問うことのできる制度。平成18年3月制定。



積極的な歳入確保

広報紙、ホームページ、公用車、封筒などを使って広告募集を行い、自主財源の確保に努めています。

In a severe financial and administrative environment, more focused, systematic and efficient operation is required. On the other hand, as the decentralization of power presses forward, citizens are also becoming active in volunteer activities.

Under the circumstances, the city promotes community building by the citizens, through facilitating participation in municipal administration. It endeavors to be a "city of collaboration" between citizens and administration, clearly marking the responsibilities of both parties.

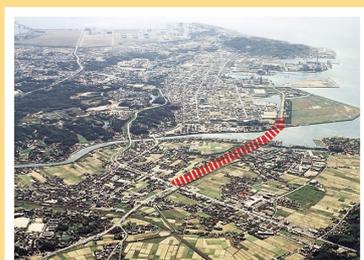
女性の労働力率(30~40歳)
(年度平均)

山陽小野田市

62.4%
【県内第4位】

山口県
58.2%
【全国30位】

総務省「国勢調査」(平成12年)



山口宇部小野田連絡道路

山口市から山口宇部空港、小野田港を經由し、山陽自動車小野田ICを結ぶ地域高規格道路の一部(小野田湾岸線)が建設着工されています。



日の出市場

商業活性化を図るため、市が整備した商業起業家育成施設。経営ノウハウを実地で学んでいます。

For industrial activities that generate energy and vigor, it is important to encourage younger generations to settle down and to create the bustle and bustle of the city center. To continuously grow such economic vitality, Sanyo Onoda city will create new industries and working opportunities and promote industrial development.

It will also tackle the formation of urban areas and the improvement of a broader traffic network to realize vigorous and busy streets.

にぎわいと活力にみちたまちづくり

【産業振興・都市基盤】

industry
urban infrastructure



小野田・楠企業団地

22.3ha。山陽自動車道小野田ICから車で4分。交通至便の内陸性工業団地。

活 力と活力を産みだす源は産業活動にあります。また、若者の定住やにぎわいのある市街地をつくり出すことが求められています。そして経済的活力を持続的に成長させていくために、新しい産業と働く場を創り出すなど、



山陽オートレース場

全国6カ所のオートレース場の一つ。平成19年1月から事業運営を民間へ包括的に委託しています。

内発的で創造的な産業振興を進めていきます。また、活気にみちた往来のあるまちづくりを実現するために、市街地の形成や広域交通網の整備にも取り組んでいきます。

うるおいのある快適なまちづくり

【生活環境】

living environment

一人あたりの
都市公園面積

山陽小野田市

30.3m²
【県内第1位】

山口県
11.6m²
【全国20位】

国土交通省
「都市公園等整備現況調査」(平成17年)



■ナルトビエイ駆除

近年、瀬戸内海近海に現われ、名産の「小野田あさり」を食べると言われているナルトビエイ。市や県の補助を受け、漁協では駆除に乗り出しています。食用を含め利活用についての検討も始まっています。



■水辺の教室

川にいる様々な生き物を観察し、身近な川の生態系を学び、環境について理解を深めます。

■須恵健康公園

体育館、テニスコート、ジョギングコースなどがあり、市民の憩いの場として親しまれています。



■バス路線の見直し

きめ細かい公共交通システムを作り上げるために、65歳以上のすべての高齢者のいる世帯にアンケートを実施しました。(写真はコミュニティバスいとね号)

市

民が生
活の中で「住み良い」

と感じる地域づくりを進めるには、人に憩いとうるおいを与える美しい自然環境の保全と快適な生活環境の基盤づくりが必要です。

そこで、快適な生活環境の整備を図るとともに、自然環境の保全と活用、ごみの減量とリサイクルなど、環境へ負荷の少ない資源循環型社会の構築を実践しています。

To have people feel that the community is livable, it is essential to conserve the beautiful natural environment, which can provide relaxation and enjoyment and to build an infrastructure for comfortable living. The city is committed to building a recycling-based society, where the natural environment is conserved and utilized, waste is reduced and recycling is promoted, in addition to creating of a comfortable living environment.

人が輝く心豊かなまちづくり

【教育 文化】

education and culture



■ マタニティ・ブックススタート事業

ほとんどの自治体で乳幼児をもつ家庭を対象に実施されているブックススタート。本市では、保健師、図書館、読み聞かせボランティアが連携協力をし、「妊婦さんに絵本を届ける」「絵本を選べる」という独自の方法で取り組みを行っています。



■ 感動体験プロジェクト

将来を背負う児童・生徒に「本物」に触れてもらう取り組みです。
(写真は山口県交響楽団の小学校出前演奏)



■ 文化会館

収容人員749人(大ホール)。音響の素晴らしさは高い評価を受けています。厚狭駅新幹線口から徒歩3分。

Lifelong learning is an opportunity for citizens to improve their quality of their skills and abilities and to have a sense of self-fulfillment. These opportunities are strongly desired by citizens.

To support these desires, the city provides opportunities not only for individuals but also opportunities for exchange and participation in the building of communities with vitality. It also endeavors to raise the level of education by enhancing preschool and school education, promoting social education and improving a variety of educational facilities.



■ 山口東京理科大学との連携

山陽小野田市にある山口東京理科大学と協定を締結し、市内学校への特別科学体験授業など、人的・知的資源の交流を行っています。

豊かな人間性を
求められていま
す。自ら学力や
実を図る「生涯
学習」の実践が
向上や自己の充
その資質・能力の

現

代は変化の時代：：
それらに的確に対応
し、市民一人ひとりが生涯
にわたり自発的に多種多様
な学習活動を行うことで、
その資質・能力の



■ 国際交流

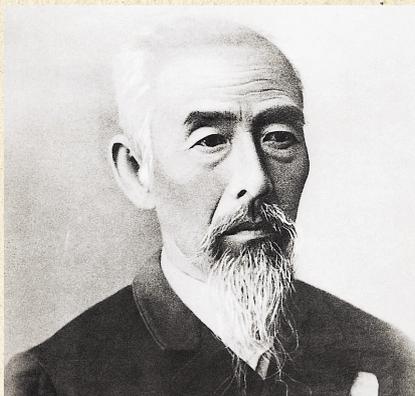
姉妹都市縁組をしているオーストラリア・レッドクリフ市と交流を行っています。

育むという意味で、幼児教
育や学校教育を充実させ、
さらに社会教育の振興や各
種教育施設の整備等による
教育環境のレベルアップを
図っています。



市章

頭文字「山陽」の山と「小野田」の小をモチーフとして融合。地球と人と人の和が表現されています。



名誉市民・笠井順八翁

笠井順八翁は明治14年(1881)、国内初の民間セメント会社(旧小野田セメント株式会社)を設立。この地の近代発展の基礎を築いたばかりではなく、日本の産業・経済史にも大きな足跡と貢献を記しました。



市の花・ツツジ

市内公園に広く植えられ親しまれている花です。中でも5万本のミツバツツジが咲き乱れる江汐公園では、4月中旬から下旬にわたり公園全体がピンク色に染まります。



市の木・クログネモチ

市内の街路樹や公共施設にも植えてある木です。常緑高木で縁起のよい木と言われることから、市の平穏安定を願う気持ちを表しています。

【山陽小野田市民憲章】

みんなのちかい

私たちは、先人のこころを受けとめ、

住みよいまちをめざして、ここにちかいをたてます。

- 一 このまちの未来のために自ら考えます。
- 一 このまちの未来のために汗を流します。

そして、このまちを愛します。

To maximize the use of the abilities of our citizen's, Sanyo Onoda city is consistent in building a collaborative community. It makes efforts to reflect the opinions and requests from a wide variety of generations in municipal administration. 27 city councilors actively discuss issues at the municipal assembly.

The city has quarterly meetings and extraordinary meetings when required. Permanent committees deal with the matters that directly influence the lives of citizens.

Emphasis is always placed on citizens in municipal administration.

市民の力が最大限に発揮されるよう、協働のまちづくりをすすめている山陽小野田市。「市民参加による市民本位のまちづくり」を基本とし、市長と市民が直接対話・提言する機会を設けるなど、幅広い世代の意見や要望を市政に反映させていきます。

また市議会では市民代表からなる27人の議員が積極的に活動。会議は年4回の定例会、必要に応じて臨時会が開かれています。常任委員会は、総務文教・民生福祉・建設・環境経済という生活に直結した委員会を設置。市民主導型の市政を实践する取り組みが重ねられています。

●市議会の様子



協働のまち

行政・議会

発刊にあたって

平成17年3月22日、旧小野田市と旧山陽町とが合併し、新しく「山陽小野田市」が誕生しました。本州の西端に位置し、下関市と境を接する本市は、瀬戸内海の穏やかな海と緑あふれる山々に囲まれた自然豊かな恵まれた環境だけでなく、市を東西に横断する山陽自動車道、JR山陽新幹線厚狭駅に代表される交通の要衝地という顔も合わせ持っています。

本誌でもご紹介していますが、山陽小野田市は新市発足以来、「まちづくり市民会議」「対話の日」など、一貫して目線を市民に置いた取り組みをすすめているところです。まだ道半ばではありますが、市民の中に行政参加の意識の芽生えを感じられるようになりました。そこで生まれるエネルギーがうねりとなって、更に多くの市民を巻き込み、新たな力を生み出していく…この循環の中にこそ、「市民参加による市民本位のまちづくり」の“礎”は築れていくはずと固く信じています。

「山陽小野田」という新しいまちの歩みはスタートしたばかりです。2007年、胎動している“まちの息吹”のようなものを、この冊子を手にした方に一人でも多く感じていただけることを願い、発刊にあたってのご挨拶とさせていただきます。

山陽小野田市長

白井 博文



山口県
Yamaguchi

山陽小野田市
SANYO ONODA City

[自動車] ● 小野田I.Cより2km・5分
By car From Sanyo Express way Onoda I.C /2km,5minutes

● 山口宇部空港より16km・25分
From Yamaguchi Ube Airport /16km,25minutes

[JR] ● 山陽新幹線厚狭駅より15分
By Japan Railway lines From Sanyo Shinkansen Asa Station /15minutes

● 山陽新幹線新山口駅より30分(小野田駅)
From Sanyo Shinkansen Shin-yamaguchi Station /30minutes

[飛行機] ● 東京より山口宇部空港まで1時間30分
By air From Tokyo to Yamaguchi Ube Airport / 1 hour 30minutes



2007

山陽小野田市市勢要覧

発行：山陽小野田市

〒756-8601 山口県山陽小野田市日の出一丁目1番1号

TEL 0836-82-1133

FAX 0836-83-9336

<http://www.city.sanyo-onoda.lg.jp/>

企画・編集／広報広聴課

印刷／株式会社ジャパンインターナショナル総合研究所

発行年月 平成19年3月